



74 新破天荒



令和四年度版
創刊
第7号

学年の先生より

七十四回生の二学年がスタートして早々の四月十一日に、今年度最初の学年集会を開催しました。学年団の先生から皆さんに発信された話を、掲載したいと思います。

一組担任の寺脇先生からは、まもなく開放されるかもしれないマスク生活について考えたとき、

元通りの生活とは？

その原風景を、本校に赴任された際の着任式に見立てて、そのときに耳にした校歌について話されましたね。当時の生徒が放ったその感動を、熱く語ってくださいました。

その校歌を、姫路南高校として卒業式で唄えるのは七十四回生の皆さんが最後であることを、皆さんには人生の宝物にしてもらいたいものです。

二組担任の渡会先生からは、教員生活で初めての理系クラス担任をもつことへの想いと、「ともに学び、成長しよう」と訴えて下さいました。

その熱い想いを、今年の某国営放送局大河ドラマの「どうする・・・」主役である人物の、幼少期人質時代での

「むづい教育」

に乗せて伝えて下さいましたね。本當のむづいとは「目の前の」仕打ちではなく、将来「だめな人間になる」ように、「今」を墮落させることであると。

教師生活が長くなり、時折目の前から「生徒」の姿を薄くしているかもしれない自分への戒めにする話でありました。

皆さんへの「叱咤激励」の奥にある先生方の思いを、心の片隅に置いておいて下さい。

三組担任の大谷先生からは、三月下旬に遭遇した姫路南高校での「空白」の時間から感じた

一期一会

の言葉の意味を掘り下げて下さいましたね。当たり前であるけれど、どんな場面でもその瞬間は、その時しかありません。勿論、その場面でもこのようにした方が良かった、やり直そうなんてこともありません。

その時に、自信と責任を持って行動ができるようお互いに、毎日を今年も大切にしようと思われたい。話の中で、漢字検定二級取得者の生徒に質問する一方、皆さんにもどんどん挑戦してほしいとも言われていました。

学びの繋がり

四組担任の名村先生からは、昨年話したこと「和」に関する投げかけから始まり、最近ハマっておられるもの一つである「韓流ドラマ」を通じて、を伝えていただきました。現代ドラマよりも時代劇をよく鑑賞される中で、そのドラマの物語でのこの人名だけでなく、以前にもどこかで名に触れた同じ人名と言うことがよくあるそうですね。そんなとき、歴史的背景であったり、歴史上での人の繋がりを知ることができたり、そんな繋がりが見えることで、本當の学びを感じることができ、学びの楽しさを知ることができる、そんなきっかけに出会いながら「この一年も頑張りましょう」と、励まして下さいました。

五組担任で学年副主任の井上三帆先生からは、皆さんの教室からもよく見える中庭の植え込みの様子が、この一年の間に今までと変化したこと

計画性の大切さ

をお話いただきました。パンジーをきっかけに、パンジーの頃には暗い土と化していたスペースも、春にはチューリップが、そのチューリップも目を、週を境に、植え込みに様々な表情を三次元的に与えて言っている様子は、皆さんの進路を考える中で大いに役立つのではないかと投げかけをして下さいました。

担任と副主任という二刀流で、七十四回生とこの一年も向かい合ってくださいます。英語を中心に、ビジネスと鍛えられることを祈っております。

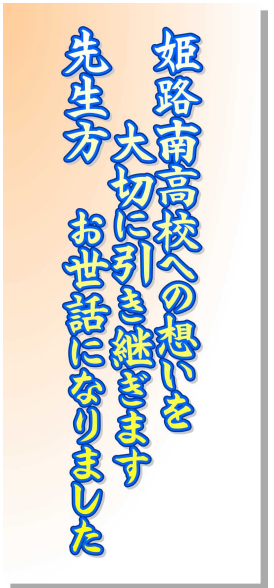
最後に新たにお迎えした副担任の井上真梨奈先生からは、去年一年間授業を共にした皆さんへの想いと、この一年でさらに皆さんとの深い関わりや出会いの期待を込めて、いま携わられているある研究での活動内容の紹介を交えて、

ともに成長していく

姿への期待感を感じさせられるお話でした。集会に臨まれる前には、大変緊張もされていましたが、さて、七十四回生学年集会デビュー戦はいかがでしたか？そんな話も、授業の合間にお聞きすることもできるのでは。

ともあれ、各先生方から発せられたメッセージは形だけのものではありません。それをどう読み取るかは十人十色、二百人二百色ですが、それを読み取る意思を持つ人が、七十四回生二百人であることを願わずにはられません。

保護者の皆様。七十四回生二学年最初の学年集会は、このような雰囲気でした。



四月十四日金曜日。三月末日を以て、本校を去られた先生方の離任式が行われました。

八名の先生方から、熱く、深く、そして重い、心のこもった想いをいただきました。

その想いをしっかりと受け止めて、自分の成長を図るべく、日々の精進を心がけていきましょう。

高尾事務長より

七十四回生の代表も舞台上に立ち、割り箸で割り箸を割る実演も行いました。その行為の裏には、「できるんだ」という強い意志を持って何事にも望んでほしい。そうすれば、本当にできると思ったことは、意外とできるものだ、熱く語ってくださいました。

世の中思うようにならなくても、「無理だ」と決めつけず、「何とかならないかな」と、自分が行ったように事になるように、♪一歩前に♪の精神で、様々なことに挑戦してください。

私の教師生活で、こんなに熱い離任のメッセージを送ってくださった事務長さんはいません。

脇本先生より

先生方、生徒の皆さんからいろんなことを「教えてもらった。」「たかが一つのあいさつのやり取りで、心が勇気を与えられたり、心が折れたりする」一週間でした。そんな中から、今まで無意識でしていたことを、相手がどんな環境にあるのかなどを、意識して行ったり、片手でできることを両手を添えて行うことを心がけよう。

この一週間大変（大きく変わったこと）だったでしょうが、「これまでできなかったことができるよう頑張る」事も大切だし、「これまで通りできる」事も大切だと思います。

大変な時が自分を成長させるチャンスだと思っ、今を大切にしてください。

土壌が変われば、生徒達に対して準備することも変わりますが、脇本先生のように常に「目の前」に生徒の姿を置いて頑張ることを見習おうと思います。

三枝先生より

南高生の良さ、「人柄」「やさしさ」を大切にしながら、「自分に対して頑張るべき」ところでもう一歩踏み込んで自分を鍛える姿がみられるような南高生になってほしい。

「楽な時に無意識に出している一歩」の行動のよさに、「苦しい時に意識して出す一歩」の行動を自分に克つ「強い心」で頑張してほしい。

ただ、頑張って頑張ってしまう。でも、「諦めるな」ときには決して「頑張るな。でも、「諦めるな」一度立ち止まり、自分を客観的に見る時間を作りながら、「南」で羽ばたき「幸せ」になってください。

禅問答みたいに、深く思考し、己の行動にどう返すかを試されているお話であったと思います。

三木先生より

「社会科学を学ぶ意味」はここにあると私は考える。それは、「今」「ここ」「自分」を絶対視することなく、客観視するためであると思う。

要約すると、自分のもっている価値観は絶対的なものではなく、多くのうちの一つであることを知ること、自分の生き方を「今」知る範囲だけで制限することなく、その幅を「拡げていく」ことができると思います。

昨年一年間、同じ学年主任という立場で、しかも、姫路南高校の色を一番つけやすい、一年四月・五月を見えない敵に奪われ、それでも戦われた七十二回生に対する毎朝の日課(生徒へのコラム・窓開け等)を目にできました。

心、想いのこもったエールをありがとうございます。

中安先生より

姫路南高校生の「素直」で「人の話をよく聞く」良さを、社会に出たときに少し心配する一面もありました。

印象に残っていることは、三鬼を追ううちの一鬼である「行事」での盛り上がり、行事終盤や後片付けの折に、どこからともなく湧き上がる校歌を耳にした感動です。

この時期、入学以来校歌を唄ったことのない在校生に、今後改めて姫路南高校の伝統を受け継いで、姫路南高校の美しい校歌が奏でられることを楽しみにしています。

学年、教科も異なり、なかなか深くお話をする機会はなかったのですが、穏やかな安定した声のトーンには、特に弓道部、七十二回生の皆さんには安心感を与えられていたのでそう。

尾崎先生より

他校に転動して感じる緊張感、今舞台上で皆さん前にして話す緊張感でいっぱいです。

新しい学校では、学校を探検する感覚です。そして、新しい学校を新たに知っていく感覚は、皆さんの「学び」の感覚と同じです。

そして「いま」、覚悟を決めて歩き出しています。皆さんはどうですか？ぜひ覚悟を決めてください。そうすれば、大変なことも「こんなことができた」と捉えることができ、逆に覚悟を決めていなければ「こんなことのできないの？」と憂鬱な気持ちが募ります。

(自分の家庭環境も交えて話してくださいました) 予期せぬ環境のおかげで、そうでなかったら経験できなかったことができたのも事実です。

世の中には、楽をする方法を経験できない人もいます。反対に、私達はある意味色んなことができる。また、できるのに「しなくても良い」という心や、やり方も知っている。自分の行動を試されている場面がたくさんあります。

どうぞ皆さん、人生色々あって当たり前。その時「どうする？」それが大切だと思います。

ホワイトボードに記載していたメッセージや、毎月の学年通信への励まし等、本当にありがとうございます。

「覚悟」を決めて、まずはこの一年を、お互いに日々向かい合いましょ。

尼ヶ塚先生より

九年前、姫路南高校に来たときに前任校のことが大好きで姫路南高校に来ることが嫌で嫌で仕方ありませんでした。

九年経った今、姫路南高校を去ることが嫌で嫌で仕方ありません。学校生活・授業・部活動・・・。

今日、姫路南高校に来ることが楽しみで楽しみで待ち遠しかったです。みんなの顔を目に焼き付けて帰ろうと思ってきたのですが、みんなの顔を見たときに、自分の順番が来たときに「伝えたい」ことが言えなくなりそうで、みんなの目を見ることができませんでした。今日を境に、姫路南高校に来て、皆さんと時間を共有する理由がなくなるのは大変寂しい限りです。

一年間、二年間、そして九年間、お世話になりました。本当にありがとうございます。さようなら。

別れは残念でなりません。が、一生の別れではない、新たな出会いを昨年来与えていただけたことに感謝するばかりです。

一つ一つの言葉の中に、濃密な関わりがあり、先生とのたくさんさんの場面を浮かべることができたと思います。

皆さんの「これから」で、たくさんさんの恩返しをすることができると思っています。

佐々木先生より

何分いただけますか？二十五分いただけますか？（最後の授業をしてくださいました。）

相手が本当に不快なのかどうか分からないルールやマナーで、自分の感情を犠牲にしてやりたいことが止められる、これも社会の一つです。

生徒から
先生が考える人権とは？

「すべき」「絶対さだ」という気持ちを持つことと、自分の貧しさが重なったとき、人は他人を攻撃することをしがちです。そんな気持ちになったとき、鏡で自分の顔を見てみよう。貧しい顔であると思いませんよ。

生徒から

先生が姫路南高校で一番印象に残っていること今日。何故なら、離任の挨拶を聞いて好き勝手に思うことを話しても良いんだと思ったから。

生徒から(続)

それ以外で

赴任した年。赴任して二週間で十四kg痩せたこと。

そして最後の講義です。

「五歳の女の子」とその「お母さん」が、ある冬に買い物に行きました。

お母さんは「好きなもの買っていいよ」と言いました。女の子は、キャラクターの絵が描かれた半袖のシャツを買ってもらいました。その冬中、女の子はそのシャツを着続けました。

翌年、同じことをしました。女の子は、今度は長袖のシャツを買いました。

お話をいただいた先生方、各々に味のある、生徒への深い愛情を、我々姫路南高校教員団に生徒と共に歩み続ける指標をいただけたと思います。

皆さんも、新天地や新しい環境の下、更なる活躍をお祈りすると共に、この先の教員生活で切磋琢磨しあえるよう、お互いに頑張りましょう。

生徒の皆さん。言葉通り、言葉の端々、言葉の裏側、言葉の行間。

皆さんは、大変貴重な時間、お題を与えられました。羨ましい限りです。

私自身、もう少しだけ素直な気持ちで、高校時代の先生のお話を聞いておけば良かったと、今感じています。



皆さんは、「なりたい自分」と考えている職種や分野について、どれくらい主体的な時間を費やしましたか？

例えば、「英語を生かした仕事」に就きたいと考えている人で、英語の宿題以外でどれくらいの時間を英語に触れたでしょう。英語という言語を利用して他者とコミュニケーションを取るためには、英語はツールであり、様々な分野への知識が必要ですが、「英語を生かした」≡「英語の語学」でとどまることのないように期待するばかりです。

例えば、「看護・介護」の世界に進みたい生徒は、「困っている人のために」の前に、「自分のこと」や「自分の身辺」、普段は時間を取り辛い、「家庭内での手伝い」など、どれくらい時間を費やせたでしょうか？

「してあげる」ことよりも「思うようにならない」、「淡々としたお世話」で毎日のほとんどが充足されるそんな仕事に就くためには、「してあげたい」ではなく、己の「するべきこと」をごく当たり前にする習慣を身につけることが重要ですが、皆さんはこの春休みをどう過ごしたかが、形に、自分の印象の中に残っているでしょうか？

目指すものは、いつまでも

憧れ

で留めておくわけにはいきません。自らに目指すうえでの「責任感」を課してもらいたいものです。

散歩道 7 4 クラスコード 5luczkw
Start 23 → 2022 last 36
2023 start 38 → Now 52
2ndGrade start 52

五月の予定

- 二 日(火) 尿検査②
- 三 日(水) 憲法記念日
- 四 日(木) みどりの日
- 五 日(金) こどもの日
- 九 日(火) 教育相談
- 十一日(木) 生徒会役員選挙
- 十六日(火)～十九日(金) 中間審査
- 二十二日(月)～ 教育実習
- 二十三日(火) 教育相談
- 二十四日(水) PTA総会
- 二十五日(木) 内科検診
- 二十六日(金) 尿再検査①

六月の予定

- 一 日(木) 尿再検査②
- 五 日(月) 耳鼻科検診①
- 六 日(火) 教育相談
- 七 日(水) 歯科検診②
- 八 日(木) 耳鼻科検診②
- 十五日(木) 文化祭①
- 十六日(金) 文化祭②
- 二十日(火) 教育相談
- 二十四日(土) 教員採用試験会場(登校禁止)
- 二十八日(水) 進路講演会(六限)
- 二十九日(木)～七月五日(水) 一学期期末審査

ちよつと。。。話

一学期始業式前の四月八日土曜日に、部活動の今シーズンの競技会が開幕しました。本校の部員達も期待と不安の中のスタートだったと思います。

良くも悪くも自分が納得するシーズンになることを祈るばかりです。

その競技会の朝、他校の卒業生ですが「お世話になりました」と、その学校の顧問の先生を通じて、素敵なメッセージとユニークなプレゼント(手拭い)をいただきました。

その生徒はやり投をしていた生徒で、二年生で全国総体に出場しました。種目柄、縁があつて何度か一緒に練習をしたり、多少のアドバイスをした程度の関係だったので、三年生では近畿地区予選会で、陸上競技の世界では「取ってはならない七番」で、全国大会出場を逃しました。会場は奈良だったので、私を私を見つけてくれて、結果の報告に来てくれました。必死で涙をこらえている彼女に、「泣くな。それも結果。泣いて終わらせたら、自分が積み重ねてきたことが薄れてしまう。この悔しさを忘れたらあかん。」と言いました。

成功を信じているんなものを犠牲にできたはず。ある意味辛かったと思いますが、受験生でありながらも、西播地区の練習会では地区の後輩達のために時間をともにし、推薦入試で見事京都教育大学に合格しました。

「教師」になるつもりはないという話も聞いていましたが、顧問の先生方と過ごした貴重な時間から、人生の選択肢の一つになったようです。

その彼女からもらったメッセージが、次に紹介するものです。

「先生と出会ってから、やり投がさらに楽しくなりました。大学生になっても、ぜひ練習会に行かせてください！」

教師生活も終盤を迎える中、「だから教師を辞められない、辞めさせてもらえない」と感じる令和五年のスタートでした。他人には自慢に聞こえようが、「事実」から皆さんへの投げかけができることに、各所に感謝するばかりです。

手拭いにはこんなコメントが。自分のことの紹介に

令和四年度全国大会出場ならず

〇〇〇〇

裏面には、

死ぬこと以外はかすり傷

思わず笑ってしまいました。彼女の顧問の先生に「こんなこと言ってミーティングしてるの?」と聞くと、「そんなこと今の時代言えるわけじゃないですよ。あいつ自身が考えたみたいです。」彼女の今後の活躍を期待するとともに、ぜひ兵庫の、西播地区の後輩達のために、教員として戻って来てくれることを強く祈っています。

今月の。。。の勧め

一 年	「無駄」
五 月	「諦めない」
六 月	「捨てる」
七 月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九 月	「テレビ」
十 月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一 月	「探る」
二 月	「自制する」
三 月	「勇気を探す」
一年最終	
二 年	
四 月	「悩むこと」
四 月 2	「本気でぶつかること」

成功が正しいのではない。成功を目指す姿こそが、成功を信じて自分を曝け出す、自分を困難にぶつけることが正しい。そう信じています。

一番だめなのは「何もしない」こと。ノーリスクノーリターンほど空しいことはない。

次に残念なのは「失敗があり得る経験」を避けること。

その瞬間、真摯に自分と闘うことに価値がある。「本気」で物事にぶつかる勇気を持ちましょう。